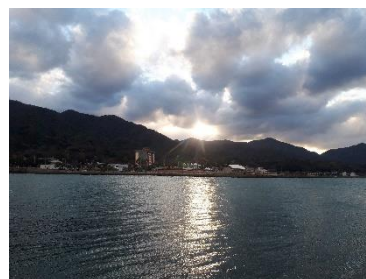


萩にあしあと残そうよ

「萩で迎えた令和三年。」

令和3年(2021)
1月1日発行
—第18号—
発行：大塚好一



山の上に顔を出した太陽。
(1月1日午前8時15分頃)

新しい年を迎えました。普段どおりに起きて、いつもと同じような朝食を作って食べました。餅もおせちも用意せず質素なものです。その代わりに、徒歩で近所の神社に参拝してきました。風が冷たくても歩けば体が温まり、すっきりした気分で一年の健康を祈ることができました。

〔日々の暮らし〕

図書館で本を借りて読むようになりました。それは良しとして、寒さに屈して走るものが減りました。さぼるのは容易ですが続けないと…。

〔自由気ままな歌日記〕

親しきが集う餅つき

取り止めと

悲しき知らせ届く年の瀬

(一二月八日)

一二度が三度四度と通ううち
かの鴨山もわが山となる

(一二月一〇日)

高齢が高齢を

支える世となりて

雪降りや父は多忙となりぬ

※郷里でかなりの積雪

(一二月一七日)

使い分けできぬものかと

コロナ禍に

「最多記録」の報道を聴く

(一二月一八日)

年越しの寒波襲来

わが部屋は

春宵描く巴水を飾る

(一二月三一日)

〔あしあとノート〕

◆人気の山・東鳳凰山◆

地図で見るとちようど山口県の中心といった場所にそびえる東鳳凰山(ほうべんざん)。西鳳凰山の方が8mほど高いのですが、山頂まで車道が延び鉄塔が林立しているのので、登山するなら東です。案内書を見たら、マニア向きという「ナマナマルト」が紹介されていたので、興味を抱いて挑みました。後で調べたら何てことはない、紹介されたラジオ番組名の一部をとってナマナマと付いたそうです。しかし、住居跡の石積みや倒木の多い深い谷筋など、どこことなく気配を感じる道でした。



東鳳凰山山頂
標高 734m

遮るもののない山頂からの眺望は素晴らしいです。山口市街や秋吉台、さらに日本海と瀬戸内海も目に入り、東方には先月登った十種ヶ峰の姿も見ることができました。

◆読者プレゼントに採用◆



新芽 60号に掲載。日本の名湯は私の入浴用です。

前職で大変お世話になった(株)バスクリンのH氏の計らいにより、バスクリン通販利用者向けの冊子「新芽」で、チヨンマゲビルをご紹介いただきました。巻末の読者プレゼントに採用してくださったものです。退職する際に電話番号を交換していて、萩暮らしが一年半ほど経過した頃、私から近況連絡をしました。そこでまさかの提案をいただくことになり、トントン拍子に話が進みました。本当にありがたいことです。

◆年内にもう一度鴨山へ◆

島根県美郷町にある斎藤茂吉鴨山記念館に、八月に作成した碑めぐりの記録を携えて行ってきました。館の人と色々お話しをしてから「実は

…」と取り出して渡したところ、掲示して教育委員会の担当者にも報告してくださることでした。こうした行動力には自身でも感心します。

◆土井ヶ浜遺跡見学◆

下関市豊北町にある土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムを訪ねました。ここは弥生時代の埋葬遺跡で、地中から約三百体もの人骨や、貝でできた副葬品などが発掘されています。人骨の出土状況も復元展示されていて、興味深く見学してきました。



土井ヶ浜ドーム内。
みな仰向けで、顔は海に向けられています。

◆萩城下町マラソン中止◆

今年はエントリーを見送っていましたが、新型コロナウイルス感染症が再拡大したため、恒例のマラソン大会は直前に中止となりました。大会事務局で色々な対策を考え準備していただけに残念でした。

〔萩に関する自由研究〕

『萩の五十音 その①』

推敲と添削を重ねて、萩市の史跡や自然など様々な魅力をピックアップし、五十音で始まるフレーズを作成しました。なお、まだ言葉を選んでいくものもあるため順不同です。萩を少しでも身近に感じていただければ幸いです。

あいはがわふびゆた
藍場川風情豊かに流れゆく



藍場川は、萩三角州を形成する阿武川の分岐点から約二・四kmにわたって市内を流れる用水堀です。かつて農業や防火用のほか、荷物の運搬等に利用されていました。現在は、四季折々の町の景色を映して、散策する人々の心を和ませています。

きくがはまはくさいしやう
菊ヶ浜白砂青松いこいの場



萩城跡から萩港まで約1km続く菊ヶ浜。白砂青松の海岸は、朝から日暮れまで散策や釣りを楽しむ人の姿が絶えません。殊に夕日の美しさで知られています。夏には海水浴場も開設され、人々のいこいの場となっています。

ぜうけい
絶景の

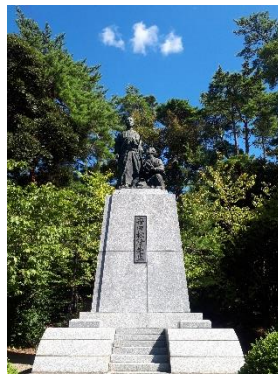
ほるんふえるすしまかべ
ホルンフェルスの縞の壁



約二千万五百万年前に、日本列島がアジア大陸から分離していく過程で、海底に堆

積した泥などが、マグマの熱で焼かれてできたホルンフェルス。泥岩（黒）と砂岩（灰色）の縞模様が美しい高さ一五mある「畳岩」がよく知られています。

たんせい はき みまもるしやういんぞう
端正に萩を見守る松陰像



眼下に市街地が見え、その先に指月山や日本海を望む小高い丘は、松陰先生が生まれて一九歳まで暮らした団子岩と呼ばれる場所です。そばには、海外密航をしようと黒船を見ている先生と金子重輔の銅像が、町を見守るように建っています。

みなも のぞ はつけいゆうせん
水面から望む八景遊覧船

萩の景色を水辺から眺める萩八景遊覧船。船頭さんの説明に耳を傾けながら橋本川や海上を航行します。川では平

安古の松原や旧田中別邸の白壁などが、海からは萩城の石積みや菊ヶ浜などが観賞でき、目線を変えた城下町散策が楽しめます。



へんせん
変遷をたどる

まちじゅう博物館 はくぶつかん

（写真は構想中）

古き時代の雰囲気を感じられる場所があちこちに点在する萩は、市街地全体が屋根のない「まちじゅう博物館」。江戸時代の地図が使えたり、武家屋敷や町家が残っていたり、時代の変遷をたどりながら散策を楽しむことができる歴史の町です。

やまなか おおいたやま あと
山深き大板山のたたら跡

江戸時代中期から明治時代初期までの間に、三回操業し

た大板山たたら。豊かな森林資源を活用して日本の伝統的な製鉄を行った遺構が見られます。洋式軍艦の船釘等の材料を供給したことで世界遺産の構成資産になりました。



ろくとう かざんきやうだいがだい
六島は火山兄弟溶岩台

萩市街の沖に点在する大島・櫃島・肥島・羽島・尾島・相島を「萩六島」と呼びます。それぞれが阿武火山群の火山で、粘り気の弱いマグマだったため平たい溶岩台地になりました。これらの島々が沖合の景色に変化をもたらしています。

